

赫夜 —かぐや—

博物館だより

2024
3.31

81
号

◆ギャラリートーク（無料）
4月7日（日）、5月5日（日） 各回13時半より、申込み不要
◆博物館のお仕事体験「博物館資料を調査せよ！ー古文書・土器・陶磁器ー」（無料）
4月14日（日）①9時半～10時半②11時～12時③13時半～14時半
会場…本館1階 定員…各回12人（小学生以上／4年生以下は保護者同伴）
申込…電子申請 3月13日（水）～27日（水）まで。申込多数の場合、抽選

to the future...
now R6/2024
reopen H28/2016

伝えていくもの

～博物館のNew Face～

R6 3.23_土 → 5.19_日
2024

休館日…月曜日（祝日は開館）、3.21（木）、4.30（火）、5.7（火） 観覧料…無料
開館時間…9:00～16:30（4月以降は17:00閉館） 会場…富士山かぐや姫ミュージアム 特別展示室⑤

① ② ③ ④ ⑤

open S56/1981

①大阪府河南町出土須恵器 ②刀子形石製品 ③武田家朱印状(部分)
④杉浦医院建築のかんな ⑤トースター・黒電話・プッシュ式電話機・電気コンロ

チラシ表の写真は、令和5年度博物館実習の一環として、実習生により撮影されたものです。

博物館には、資料の収集、保管、展示という中核となる業務があります。加えて公立の博物館である当館は、富士市にとって大切なものを見だし、未来に伝えるという役割を担っています。

その役割のもと、日々さまざまな資料が収集され、新たな収蔵資料となっていきます。それらは富士市の財産となることはもちろん、未来に「伝えていくもの」という学芸員の思いと調査成果によって集められた、貴重な資料から成り立っています。

当館は、平成28年（2016）4月、郷土の歴史や伝説をもとにリニューアルオープンしましたが、リニューアル10周年を目の前にした時、新たな収蔵資料をなかなか展示できていないという現実がありました。そこで今一度資料を見直し、一部ではありますが、皆さまに紹介いたします。

当館の「New Face」たちと学芸員の熱い思いにぜひご注目ください。

（佐野あき沙）

秋のテーマ展 学びの窓 150年

(展示期間：令和5年10月7日～令和6年1月8日)

明治5年(1872)、「^{がくせい}学制」が^な欧米に倣った近代的な学校制度が日本で定められました。江戸時代までの^{しじふく}私塾や寺子屋とは異なり、全ての子どもが等しく教育を受けられる画期的なものでした。

令和5年(2023)には、^{がくせい}学制が施行された明治6年(1873)から次々につくられた小学校の多くが創立150周年を迎えました。これを記念して、富士市内の小学校を中心にその歴史を振り返るとともに、明治初年から平成半ばまで時代ごとの教材や道具などを展示しました。

さて、展示会で陳列したものの、冊子につき内容を全てお見せできなかった資料のうち、明治15年(1875)発行『^{ちんねい}児童心得 全』をご紹介します。

本資料は、静岡県学務課編集で、現在の富士市吉原にあった「^{よしはら}吉原書林 橋香堂」で刷られたもので、富士郡下の小学校児童に頒布されたものと思われます。

内容としては、現在の小学校内で掲げられる「生活のきまり」のような内容で、通学から学校内、下校までの様々な生活上の振る舞い方や決め事などが示されています。ここでは、記されている心得の全17条を簡潔に意識して右のとおりご紹介しします。



展示会の様子



『児童心得 全』

児童心得

1. 朝は早起きして身だしなみを整え、親に挨拶し、食事が済んだら学校の仕度をして忘れ物が無いように。
2. 始業 10 分前までに登校するように。
3. 授業時間になったら各々席に着いて先生の指示を待ち、勝手に教室には入らないように。
4. 授業中は集中して先生の話を聞き、よそ見や雑談をしないように。
5. 先生は勉強を教えてくれる恩人だから敬うように。
6. 遅刻した時は先生に理由を伝えて指示を待つように。
7. 登下校や外出・帰宅の時は、親や目上の人に必ず一言伝えていくように。
8. 障子や襖の開閉は静かするように。書籍は丁寧に扱い、爪で紙を傷めたり、指に唾を付けてめくったりしないように。
9. 先生の言うことを聞いて、わがままを言わないように。質問があれば手を挙げて先生の許しを得てから発言するように。
10. いつでも行儀良くし、悪い遊びをせず良い友達と過ごすように。
11. 友達の良い面は真似するように。けなしたり言い争ったりしないように。
12. 弁当以外の食べ物や、おもちゃ、お金などは持つてこないように。
13. トイレでは注意して、衣服やトイレを汚さないように。
14. 知人に会う時は、礼儀良く挨拶し、帽子を被っていたら脱ぐように。
15. 校内ではもちろんのこと、どこでも人に親切にし、決して不遜な態度をしないように。
16. 登下校中は、木や草の実を採り荒らしたり石や土を投げたりしないように。
17. 登下校中は寄り道しないように。もし車や馬が通ったら避けて通り過ぎるのを待ち、前を横切ることのないように。

これは、明治6年に文部省で出された『小学生徒心得』をベースに加筆修正されたものですが、各地でも同様の心得書が作成されました。本資料では、上記の第5・7・10・12・16条が文部省本に謳われていない条項ですが、内容を見るに授業外の生活面で具体的な指示を記しており、生活指導での^{うかが}労苦が窺えます。明治13年(1880)「第2次教育令」で修身(道徳)教育の重視による儒教的な思想が学校教育に取り込まれることで、各地の心得書では教訓的な記述が増えたという指摘もありますが、静岡県編集の本資料においてはその影響はあまりみられません。

時代の経過とともに、行政や地域社会、生活文化や科学の発展などあらゆる環境の変化に影響を受け、今後どのような学校教育が展開するのか、本展示会を通して、観覧者の皆さまにとって、改めて見つめ直す機会になったのではないのでしょうか。(秋山 裕貴)

第60回企画展 東海道にける富士の橋

(展示期間：令和6年1月20日～3月10日)

第60回企画展では、令和6年(2024)の富士川かりがね橋架橋と、大正13年(1924)に開通した富士川橋が100周年を迎えたことを記念して、「東海道にける富士の橋」と題し、市域の東海道にかかる橋の歴史をご紹介します。そのなかで「富士川に“浮かぶ”橋」というテーマで富士川に架けられた船橋の歴史を紹介し、その事例として明治天皇が東京へ行幸した際に架けられた船橋を取り上げました。ここでは明治天皇の船橋に関連する史料を紹介します。

明治天皇は富士川船橋を、明治元年（1868）10月6日、12月11日、明治2年3月23日の3度渡りました。船橋の設置に関する指揮監督は駿府藩の「船橋御掛り御役人」布施鉉吉郎らが担当し、実際の実務は岩淵や岩本、松岡（いずれも現富士市）の人々が請け負いました。本展示では、岩淵や岩本から提出された船橋の設置・解体に関する帳簿を展示しました。そのなかで、当館蔵影山家文書No. G-3-2-25「御再幸御船橋御取崩御入用書上帳」（図1）について紹介します。この史料は明治2年4月に作成された、明治天皇が再び東京へ向かう際に架けられた船橋の解体に関する帳簿です。内容をまとめると表1のようになります。

船橋解体の件費について、人足や大工の人数・1人当りの賃金・その総額・作業内容の順で記されています。最後に合計金額と差出として岩本村名主平兵衛ほか3名の印鑑が押され、「御船橋御掛り御役人中様」宛となっています。この帳簿で興味深い点は、史料中に「埋穴堀并・芋綱、水中より引揚人足等之分」として、芋綱を富士川の水中から引き上げる人足が60人計上されているところです。芋綱とは、麻でできた綱で、古代から近世にいたるまで船の各種綱具として最上のものとされました。

富士川船橋に用いられた錨は、「明治元年辰九月東海道富士川船橋四百分一之略図」（図2）に芋綱と連結された17基の錨が描かれています。この図は、明治元年10月に明治天皇が東京へ向かう際に架けられた船橋を描いた刷物で、「船橋御掛り御役人」として布施鉉吉郎ら8名の駿府藩役人が名を連ね、「三千枚

限」とあることから勧進目的で刷られたものと思われます。錨は河川敷に設置されているように見えますが、水位によっては川の中に入ってしまったため、「水中より引揚人足」が必要となったと思われます。しかし、急流富士川では錨を引き上げる作業が困難だったためか、図3のような錨が取り残され、今日に伝わったものと思われます。この錨は平成28年（2016）に富士川地区の市民の方から寄贈を受けたもので、数十年前に富士川から引き上げた錨2基のうちのひとつと伺いました。四爪錨と呼ばれる形状で、高さ150cm・爪の幅90cm、大人2人でやっと持ち上がる重さです。17世紀半ばから普及しはじめ、江戸時代の廻船で広く用いられましたが、明治時代以降は錨の小型化に伴い、衰退しました。富士川の川底に残されたおかげで、戦時下の鉄製品供出を避け、明治天皇東幸の際に作られた船橋の様子を現代に伝えることができたと言えます。この錨が寄贈されたときは、用途など不明な点が多くありましたが、他の資料を解き明かし、連結させることで、今回新たな歴史の一面を展示することができました。（杉本 寛郎）

【表1】「御再幸御船橋御取崩御入用書上帳」の内容

費目	数量	単価	金額	用途
人足	62人	150文	9貫300文	船橋取崩手初め人足など
人足	70人	150文	10貫500文	右同断ならびに諸色、松岡村まで持ち運ぶ人足
人足	54人 60人	150文	8貫100文 9貫	埋穴堀ならびに芋綱、水中より引き揚げ人足
人足	38人	150文	5貫700文	碇錨ならびに芋綱、松岡村より持ち運ぶ人足
大工	10人	312文5分	3貫125文	船橋取崩大工
人足	5人	150文	750文	4/1～4/5の夜番賃
人足	25人	150文	3貫750文	松岡村の太兵衛方の土蔵片付け・御預りの品、積み替えならびに材木積み置き分
合計			永43貫625文 (金に換算すると↓) 金58両3分2朱18文8歩	※合計は合わない 3割5歩増

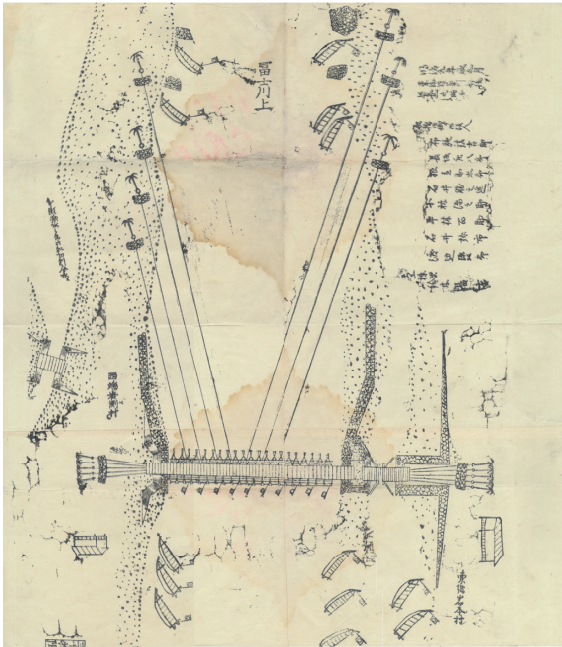


図2：明治元年辰九月東海道富士川船橋四百分一之略図

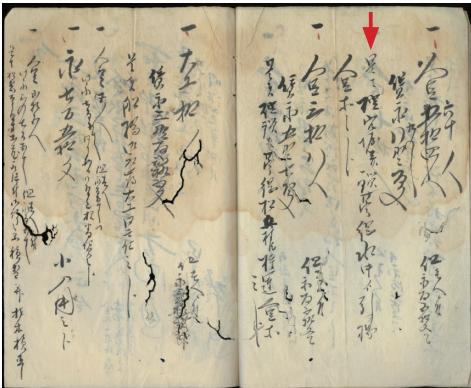


図1：御再幸御船橋御取崩御入用書上帳（表紙、錨水中より引揚人足部分）

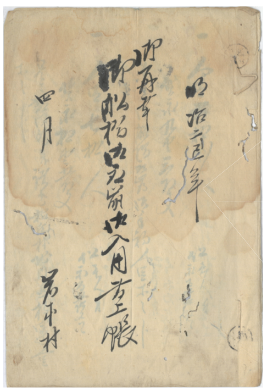


図3：富士川の川底から回収したといわれる錨

旧稲垣家住宅屋根葺き替え見学会 開催報告

令和5年12月2日、広見公園内にある静岡県指定有形文化財「旧稲垣家住宅」において、茅葺き屋根の葺き替え見学会を一般向けに開催しました。これは、損傷が進む北面屋根の修繕に伴う事業で、市内外から20名以上の方が参加しました。

講師は、御殿場市の茅葺き職人・峯正也さんで、茅の特性や作業道具などの説明、富士山麓が茅の一大産地であることの紹介のほか、実演を交えて茅葺き屋根について解説していただきました。参加者には、傷んだ茅を抜き取って新しい茅に替える「差し茅」という工程を実践してもらい、茅を束ねる作業やその茅束を屋根に差し込む作業を、とても興味深そうに体験していました。

峯さんからは、茅葺き職人や道具職人の継承者が少ないことや、茅の刈り手不足などのお話もあり、茅という視点だけでも文化財を伝え残していくことの大変さや、茅の文化について理解することの大切さを知れる良い機会になったと思います。（秋山 裕貴）



見学会の様子

学校と博物館との連携報告

毎度ありがとうございます 出前授業です

富士山かぐや姫ミュージアムでは、学校との連携の一環として小中学校への出前授業を長年行っています。

小学生対象では、昔の道具体験や勾玉作り、紙漉き、火おこし、土器アクセサリ作りといった体験学習をはじめ、学区の地名や歴史、地域出土品の説明、博物館職員のお仕事紹介など各校のリクエストに応じて実施しました。また、中学生向けには、今年度初めての試みとして学芸員が発案した土器片拓本体験や火おこし体験を行いました。

子供たちは実際に見たり、触れたりといった五感を活用した体験活動を通して、フレッシュな感動や発見、実感的な理解、新たな追求意欲を得ることができます。

さらに、出前授業の他にも教員を対象に地域教材研究や資料提供の協力、小学校社会科副読本『ふじ』と博物館展示の対応表作成・配布などに取り組んでいます。

これからも、出前授業をきっかけに子供たちが博物館に足を運んでいただき、展示室の本物との出会いに繋がるお手伝いをしていきます。（内田 昌宏）



小学校3年生対象の昔の道具出前授業（富士川第一小）

富士山かぐや姫ミュージアム 赫夜-かぐや-

発行年月日 令和6（2024）年3月31日

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

印刷 株式会社文光堂

住所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2 TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398
HP: <https://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail: museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12/29～1/3（年末年始）

歴史民俗資料館（分館） 開館時間・休館日は本館に同じ

博物館屋外展示（ふるさと村） 休館日なし すべて観覧無料

博物館だより
No.81



タイトルの「赫夜-かぐや-」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」（当館蔵）に登場する「赫夜姫」からとっています。